



子どもたちの 素直な思いを

本市が生んだ偉大な詩人萩原朔太郎の生誕120周年にあたる今年、「若い芽のポエム」に北海道から沖縄まで全国24の都道府県から、昨年を上回る1万7,488編の応募がありました。詩のコンクールでこれだけ多くの作品が寄せられるのは、このコンクールが唯一と聞いていますが、いずれの作品も、子どもたちの素直な思いがみずみずしい言葉でつづられております。

現在、子どもたちを取り巻く社会状況はますます複雑になり、思いもよらない事件が新聞やテレビなどでしばしば取り上げられ、そのたびに教育の重要性を痛感しています。

本市では、将来の都市像として「生命都市いきいき前橋」構想を掲げ、さまざまな施策を展開しております。そのためにはまず、次代を担う子どもたちが心豊かに、いきいきと育つことが不可欠であり、本事業が果たす役割は大きいと思います。

委員の皆さんには、本事業の充実さらには本市における教育・文化の一層の振興のため、よろしくをお願いします。(第10回「若い芽のポエム」推薦委員会、8月17日、前橋テルサ)

ふれあい 広場

まえばし シティフラッシュ



夏の夜空を彩る大輪の花

恒例の前橋花火大会が八月十五日、大渡橋付近の利根川で開催され、浴衣姿の人や家族連れなどにぎわいました。スターマインや空中ナイアガラなど夜空に織りなす光の競演。河川敷に集まった観客から歓声と拍手が上がりました。



本市の保育を紹介

市役所1階市民ロビーで、8月18日から31日まですこやか保育展が行われました。市内保育所(園)の制度や生活内容などをパネルで分かりやすく紹介。子育て相談なども行われ、親子連れの姿が多く見られました。

ロボットが熱戦を

8月19日、県生涯学習センターで「まえばしロボコン2006」が開かれました。自作のロボットを操作して、スポンジボールを相手ゴールに入れる競技。中学生と一般の2部で熱戦が展開され、優勝者らにトロフィーが贈られました。



大胡地区

地域で交流 町の納涼祭

横沢町の多目的集会センター1広場で八月二十日に納涼祭雷電神社祭が開催。古くから地元神社の行事として親しまれ、今も子どもたちが作成した灯籠を神社に飾っていますが、現在は町の納涼祭となり、一層地域に密着したものになりました。当日は子どもからお年寄りまで百五十人が参加。民謡踊りでは地域伝統の大胡音頭も披露され、カラオケ大会で夜までにぎわいました。横堀平吉自治会長は「地域のつながりを守るため必要な行事。ずっと続けていきたいですね」と話していました。



七観世音に 子の成長願う

下川淵地区



八月十七日、亀里町矢島の七観音で、伝統行事の七観世音祭りが行われました。安産と子育ての観音様として親しまれている七体の像を開帳。出産を控えた夫婦や幼い子どもを連れた人が次々とお参りに訪れます。嫁ぎ先の県外から来る人も。普段見られない七観音に手を合わせ、子どもの健やかな成長を祈りました。主代勝茂自治会長は「安産祈願に来た人が、出産後も子どもとお参りに来てくれれば幸いです。触れ合いを大切に、安心して暮らせる町にしたいですね」と話していました。

気軽に声を掛けてください

市国際交流員として、八月九日、高木市長から辞令を受けた。イタリア・ペローナ市出身。ベネチア大で日本語を専攻し、英語も堪能だ。「高校のときに小津安二郎



新しい市国際交流員

クラウディオ・コッピニさん(25)
住吉町一丁目

や黒沢明の映画を観たことが、日本に興味を持ったきっかけ。ヨーロッパと文化が大きく違う点に引かれ、大学で日本語を学びました。漢字は難しいですが、村上春樹や吉本ばななの本をよく読みます。昨年九月まで早稲田大へ一年間留学していたので、日本食も納豆以外は何でも食べられ、寿司とラーメンが大好きです。出身地のペローナ市は人口二十七万人。古代ローマ時代の円形競技場、中世の街並みが残ることなどから世界遺産に指定されている。また、「ロミオとジュリエット」の舞台

になったことでも有名だ。「前橋は中心街に美しい川が流れ、近くに山が見える静かな都市で故郷に似ています。都会の混雑は嫌いなので、ここに住み、仕事ができることをうれしく思っています。」国際交流員の仕事は通訳や翻訳、外国人相談窓口、英語の広報誌「前橋瓦版」の編集発行など盛りだくさん。「わたしに会ったら、気軽に話し掛けてください。日本語をもっと勉強して、イタリアなどとの国際交流に努力していきたいです」と、仕事に意欲を燃やしている。